

▽葛綿 正一 教授 KUZUWATA Masakazu



学 科： 総合文化学部日本文化学科
 担 当： 日本文化論Ⅰ・Ⅱ、日本古典文学史、日本文学概論、古
 典に親しむ、古典に学ぶ、リテラシー入門Ⅰ・Ⅱ、演習、
 日本古典文学特論(大学院)

学歴等のプロフィール

① 【 主要学歴 】 ②【 学 位 】 ③【 所属学会 】 ④【 主要な社会的活動 】

- ② 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
 ③ 修士
 ④ 中古文学会、中世文学会、日本文学協会

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
葛綿正一		
1. 教育活動・方法の実践例		
① 日本文化論Ⅰ	2015年	前期、日本文化学科専門科目、約150名登録、ビデオ教材を活用し、日本文化に対する関心を深めた。
② 演習	2015年	通年、日本文化学科専門科目、約25名登録、ゼミ論集をまとめた。
③ 論文審査	2010年	源氏物語に関する修士論文を指導し、審査した。
	2011年	説話文学に関する修士論文を指導し、審査した。
	2013年	俳句研究に関する修士論文を指導し、審査した。
	2015年	更級日記、今昔物語集に関する修士論文を指導し、審査した。

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>① 演習における論集の作成</p>	<p>2015年</p>	<p>ゼミ論集をまとめ、卒業論文指導に活用した。</p>
<p>3. 学生支援活動</p> <p>① 学習支援</p> <p>② 生活支援</p> <p>③ キャリア支援</p>	<p>2014年</p> <p>2014年</p> <p>2015年</p>	<p>学習不振者数名を指導した。</p> <p>学習不振者に対して、生活習慣の改善を指導した。</p> <p>ゼミ学生に面接の仕方、エントリーシートの書き方を指導した。</p>
<p>4. 学外での教育活動</p> <p>① セミナー講師</p>	<p>2011年1月</p> <p>2013年11月</p>	<p>学外講座の講師として、与那原町教育センターで「古典文学の楽しみ」を講演した。</p> <p>学外講座の講師として、北谷町ニライセンターで「古典文学の楽しみ」を講演した。</p>
<p>5. 教育改善活動</p> <p>① 授業評価アンケート</p> <p>② FD研修会への参加</p>	<p>2015年</p> <p>2010年</p>	<p>「日本文化論」「日本文学史Ⅰ」の授業評価アンケートで良好な評価を得た。学生にもっと知的な刺激を与えることを課題としたい。</p> <p>FD委員会が企画した研修会に数回出席し、見識を深めた。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

『枕草子・徒然草・浮世草子——言説の変容』北溟社、2001年

枕草子、徒然草、浮世草子のそれぞれの相違を言説の変容として位置づけたもの。

「とはずがたり論」『沖縄国際大学日本語日本文学研究』三、1998年（年次別国文学論文集に再録）

中世の日記文学とはずがたりにみられるキーワードに着目して、その作品を分析したもの。

「平家物語と日付の問題——叙事詩論」同四、1999年（年次別国文学論文集に再録）

平家物語に頻出する日付に着目して、叙事詩について考察したもの。

「説経の構造——不気味なものをめぐって」同五、1999年

山椒大夫などの語り物にみられる不気味なものに着目し、説経の構造を分析したもの。

「近松と西鶴——契約・説得・宙吊り」同一、1997年

西鶴と比較しながら近松演劇を分析し、契約・説得・宙吊りという特徴を指摘したもの。

「上田秋成と戦いの問題——攻撃と待機」同六、2000年（年次別国文学論文集に再録）

秋成の小説を分析し、そこにみられる攻撃と待機のテーマを考察したもの。

「都賀庭鐘論——気象・地形・亡命」同二一、2008年（年次別国文学論文集に再録）

庭鐘の小説を分析し、そこにみられる言語形象について論じたもの。

「近世説美少年録を読む——火・卵・石」同二六、2010年

馬琴の小説を分析し、そこにみられる物質的テーマについて論じたもの。

「開巻驚奇侠客伝を読む——髑髏と飛行」同二七、2011年

馬琴の小説を分析し、そこにみられる人物形象について論じたもの。

「椿説弓張月を読む——言葉の張力」同二七、2011年

馬琴の小説を分析し、そこにみられる言語形象について論じたもの。

「南総里見八犬伝を読む——怨霊・仮装・王権」同二八、2011年

馬琴の小説を分析し、そこにみられる王権と資本の問題を論じたもの。

「朝夷巡嶋記全伝を読む——背の巡歴」同二九、2012年

馬琴の小説を分析し、そこにみられる言語形象について論じたもの。

「近松の時代物——双生・女夫・川中島」同三二、2013年

近松の時代物を対象として、分身・カップル・構造という視点から分析したもの。

「太平記と知の形態——享楽・座談・解釈」同三三、2014年

太平記における知の形態を分析し、享楽・座談・解釈の重要性を論じたもの。

研究分野

日本古典文学、日本文化論

【Eメール・ホームページ等】

kuzuwata@okiu.ac.jp

平成 28 年 7 月 7 日現在